

病棟保育に関する全国調査

小児病棟＝育ちの場としての質を豊かに

石井 悠（東京大学大学院教育学研究科 博士課程）

遠藤利彦（東京大学大学院教育学研究科 教授）

慣れない環境

検査

手術

処置

薬

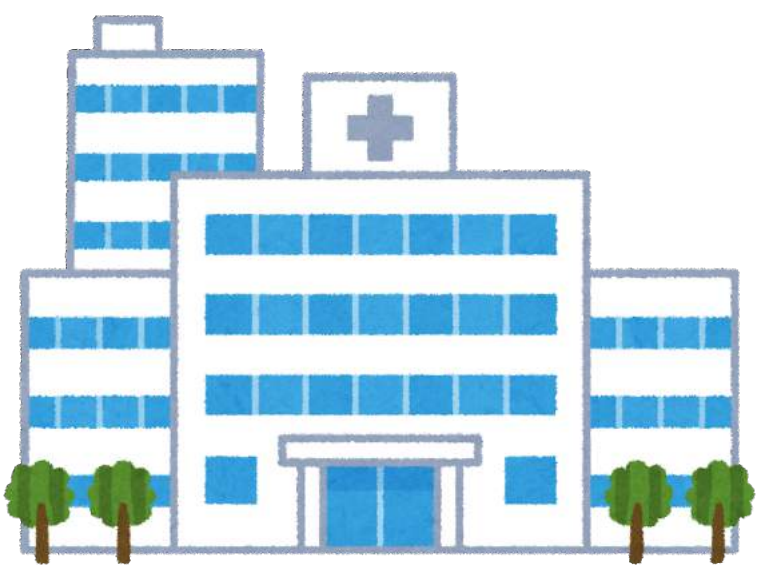
一人で就寝

ストレス

不確かさ

不安

恐怖





入院環境＝

子どもの育ちを下支えする様々な経験や関わりが
剥奪されやすい・容易に剥奪されうる環境

調査の背景 そもそも病棟保育とは

医療保育：

医療を要する子どもとその家族を対象として、子どもを医療の主体として捉え、専門的な保育支援を通して、本人と家族のQOLの向上を目指すことを目的とする

(日本医療保育学会HP)

- ・ 病児・病後児保育施設
- ・ 各種障がい児施設

この中でも、こども病院や、病院の小児科・小児病棟の中で、入院している子どもを対象とした保育 **= 病棟保育**



背景 病棟保育の歴史

- 1954年 小児病棟に保育士（当時は「保母」を導入開始）
患児の「遊び」を大切にする目的@聖路加国際病院
- 1994年 123施設で病棟保育士を導入（帆足, 1997）
- 2002年 小児入院医療管理料に保育士加算
”保育士1名以上を配置したプレイルームを備える場合に保険点数加算”
- 2005年 300施設あまり(=小児科を標榜する全国の医療施設の約10%)
に病棟保育士が配置（長嶋, 2006）
- 2007年 「医療保育専門士」資格認定制度
- 2010年 特定機能病院も、保育士加算が算定可能に

背景 病棟保育士の潜在的な必要性

- ✓ 小児医療技術の進歩に伴い、長期間・繰り返し入院しても退院し、日常生活を送れるようになる子どもが増加

e.g. 急性リンパ腫性白血病 (最も多い小児がん)

1960年代 30%ほど



2000年以降 70~80% (山下, 2012)



“サバイバー”がマジョリティーになっている

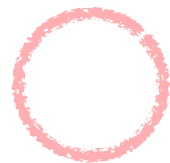


心理社会的な問題を抱えている e.g.結婚、就職、対人関係
(e.g., 松浦他, 2008)

背景 病棟保育士の潜在的な必要性



「治療の場」



「育ちの場」



元来、子どもの保育（養護・教育）を専門とする
保育士が、この解決に寄与できる可能性があるのでは？

背景 諸外国との違い

アメリカ：
チャイルド・ライフ・スペシャリスト
Child Life Specialist



<http://www.connectwithchildlife.com/2015/08/child-life-in-radiology.html>

不安・ストレスの軽減



<https://twitter.com/greatormondst/status/764378572115107840>

イギリス：
ホスピタル・プレイ・スペシャリスト
Hospital Play Specialist

病院の中に、子どもの育ちを重視する「保育」を取り入れたのは日本が初めて

問題



➡ 病棟保育に関する、ガイドラインや指針がない

✓ 病院・病棟による業務の大きな違い

- ・ 採用時の職種も様々(看護助手、事務職)
- ・ 病院によって業務が定まらない (e.g., 末成他, 2003; 原田, 2007)

✓ 他のコ・メディカルとの協働における問題

看護師・CLS・HPS・医療療育支援士.....

(e.g., 伊藤他, 2008; 深谷他, 2008)

➡ しかし、現時点で病棟保育士のどのような働きに、どの程度ばらつきがあるのかを示す調査もない

調査の目的

**2つの調査を組み合わせてことによって
病棟保育の実態を多面的に捉える**

- ➡ 回答率の比較的高い電話調査を用いて「病棟保育の数の把握」
- ➡ より一層回答者の業務や気持ちの実態に迫ることができるアンケート調査を用いて「病棟保育の業務実態の把握」

4つのRQ

RQ1. そもそも、どれくらいの病院に、どのような経緯で、病棟保育の導入が進んでいるのか

RQ2. 病棟保育は子ども・家族の支援に寄与しているのか

RQ3. 保育士は、自身の使命・役割を理解し、やりがいを持って働いているのか

RQ4. 病棟保育は、病院全体の機能の向上にどのように寄与しているのか

調査の概要

—内容・方法—

調査の概要

対象：小児科・小児外科を標榜する病院2686施設

病棟保育の数の把握

電話調査

病棟保育の業務内容の把握

アンケート調査

病棟保育あり

調査票A

保育士

調査票A-1

病棟保育なし

調査票B

上司

調査票A-2

調査の概要

電話調査

実施時期：2017年1月～5月

対象：日本全国の小児科・小児外科を標榜する2686病院

質問内容：実施している保育施設・サービス

回答率：	電話回答	2129	79%
	FAX回答	26	1%
	無回答	461	17%
	その他	70	3%
	全数	2686	100%

※ 「その他」には、小児科標榜を取り下げた病院などが含まれる

調査の概要

アンケート調査

実施時期：2016年11月～12月

対象：日本全国の小児科・小児外科を標榜する2686病院

回答者：

- **病棟保育を実施している場合：**

A-1 もっとも子ども（新生児・小児）の入院数が多い病棟に配属されている保育士の方1名

A-2 A-1に回答した保育士の直属の上司1名

- **病棟保育を実施していない場合：**

B もっとも子ども（新生児・小児）の入院数が多い病棟の管理者の方1名、もしくはそれに該当する方1名

回収方法：該当者にご回答いただき厳封の上郵送、もしくはweb回答

調査の概要

アンケート調査

回収数：調査票 B 614通
 調査票 A-1 193通
 調査票 A-2 176通

※ 調査票A-1とA-2がどちらも
回答・提出された病院は153

分析に用いたデータ：

調査票 B 562
調査票 A-1 165
調査票 A-2 144

※ 調査票A-1とA-2がともに分析
対象となった病院は120

※ 一般小児病棟における保育（病棟保育）を実施していない病院
（医療型障害児入所施設や病児病後児施設のための病院）は、今回
は分析から除外した

調査の概要

アンケート調査

Aセットの主な調査内容

A-1 病棟保育士のみ

- ・ 病棟保育士の属性
(資格・経験等)
- ・ 実際の業務
(患児との関わり等)
- ・ 労働環境
- ・ 役割葛藤・職場満足度
- ・ 研修機会
- ・ 病棟保育の質

A-2 上司のみ

- ・ 病棟保育士導入の経緯
- ・ 病棟保育士が兼任する
保育業務 (ジョブローテ
ーション等)
- ・ 雇用状況 (雇用条件等)
- ・ 期待する業務
- ・ 保育環境 (プレイルーム)

+

両方

- ・ 保育体制
- ・ 業務決定方法
- ・ 保育方針
- ・ 他職種連携 (意見・情報交換)

Bセットの主な調査内容

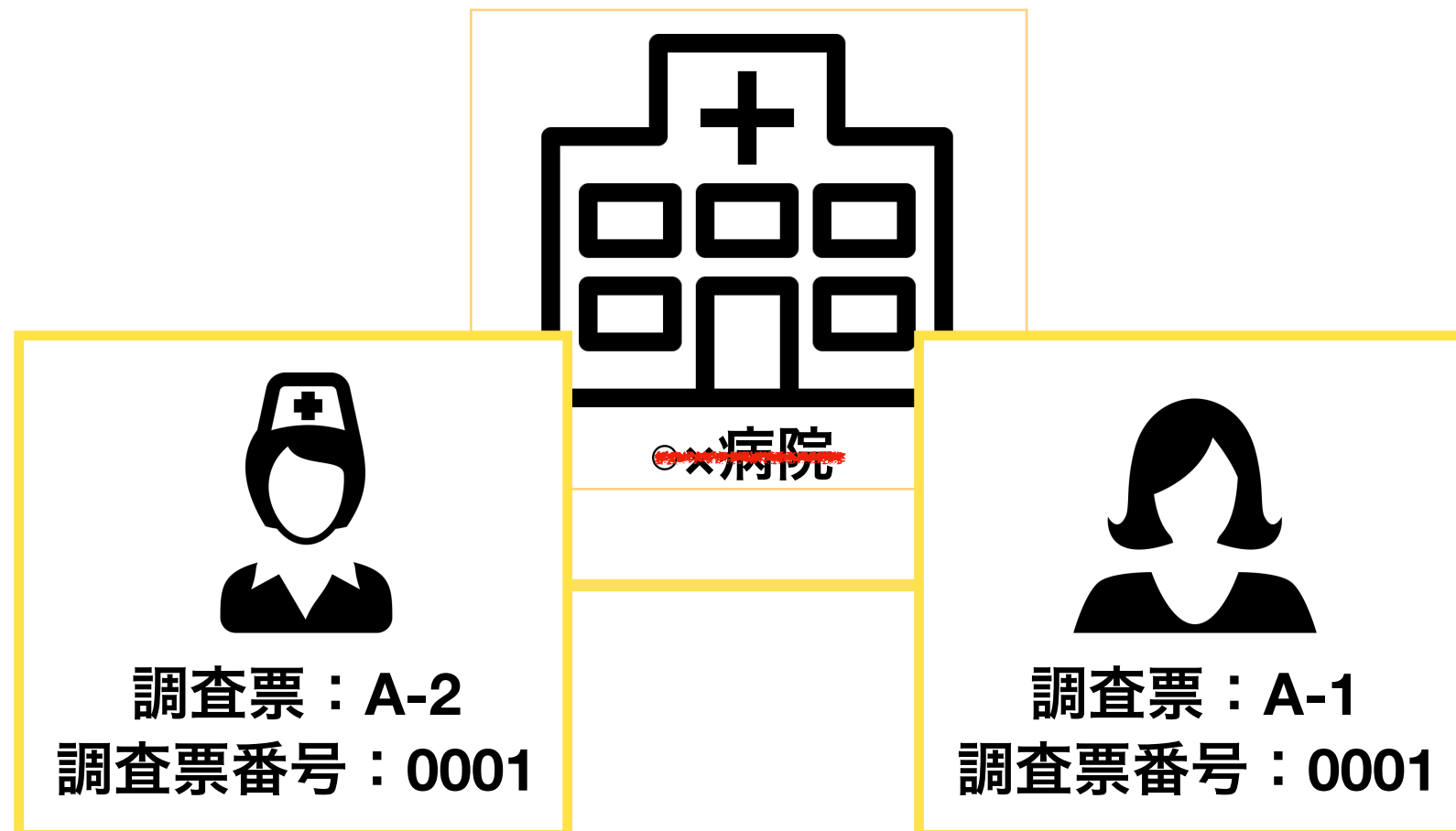
- ・ 病棟保育知識の有無
- ・ 保険点数知識の有無
- ・ 病棟保育非導入の理由
- ・ 今度の導入・検討予定

調査の概要

アンケート調査

調査票の特徴：

- 無記名自記式
- 帆足(1997)・長嶋(2006)の調査と比較できる項目の作成
- 病棟保育の実態をより深く理解するため、A-1/A-2調査票を紐付け
 - ※ 調査票番号と病院自体は紐付けしていないため、病院自体は特定できません。



調查結果

4つのRQ

**RQ1. そもそも、どれくらいの病院に、どのような経緯で
病棟保育の導入が進んでいるのか**

RQ2. 病棟保育は子ども・家族の支援に寄与しているのか

RQ3. 保育士は、自身の使命・役割を理解し、やりがいを持って
働けているのか

RQ4. 病棟保育は、病院全体の機能の向上にどのように寄与して
いるのか

RQ1. そもそも、どれくらいの病院に、どのような経緯で 病棟保育の導入が進んでいるのか

電話調査の結果

全保育に関する実施状況

実施	1297
未実施	960
不明	1
無回答	428
全数	2686

病院内で実施されている保育（複数回答）

(小児)一般病棟	196	7.3%
外来	30	1.1%
医療型障害児入所施設	110	4.1%
病児・病後児保育施設	159	5.9%
院内保育施設・事業所内保育施設	1002	37.3%
その他	89	3.3%
不明	7	0.3%

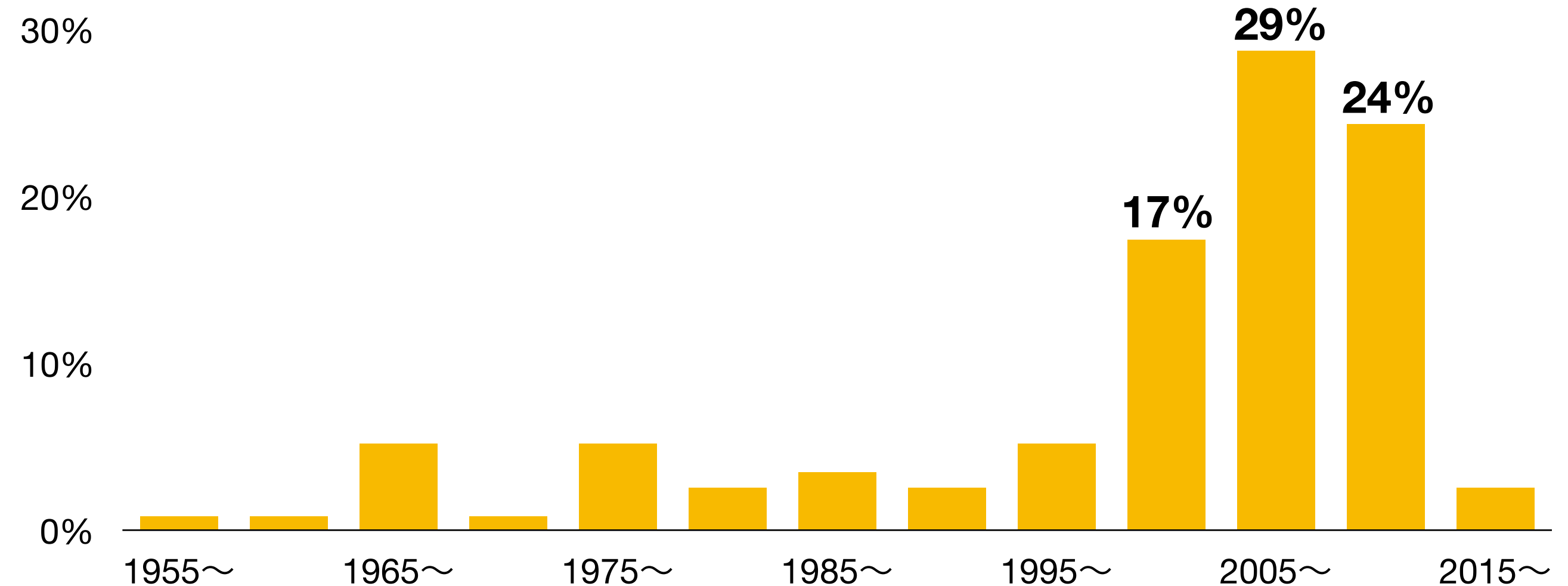
※ 割合は、2686施設に対する割合を算出

- ▶ (小児)一般病棟と医療型障害児入所施設のどちらか、もしくは両方に病棟保育士を配置している病院は286施設（10.6%）

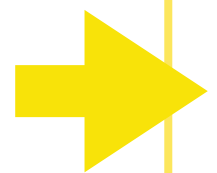
RQ1. そもそも、どれくらいの病院に、どのような経緯で 病棟保育の導入が進んでいるのか

電話調査の結果

初めて病棟に保育士が配置された年



※ 括弧内は有効回答数 (115)

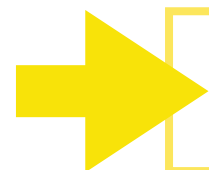
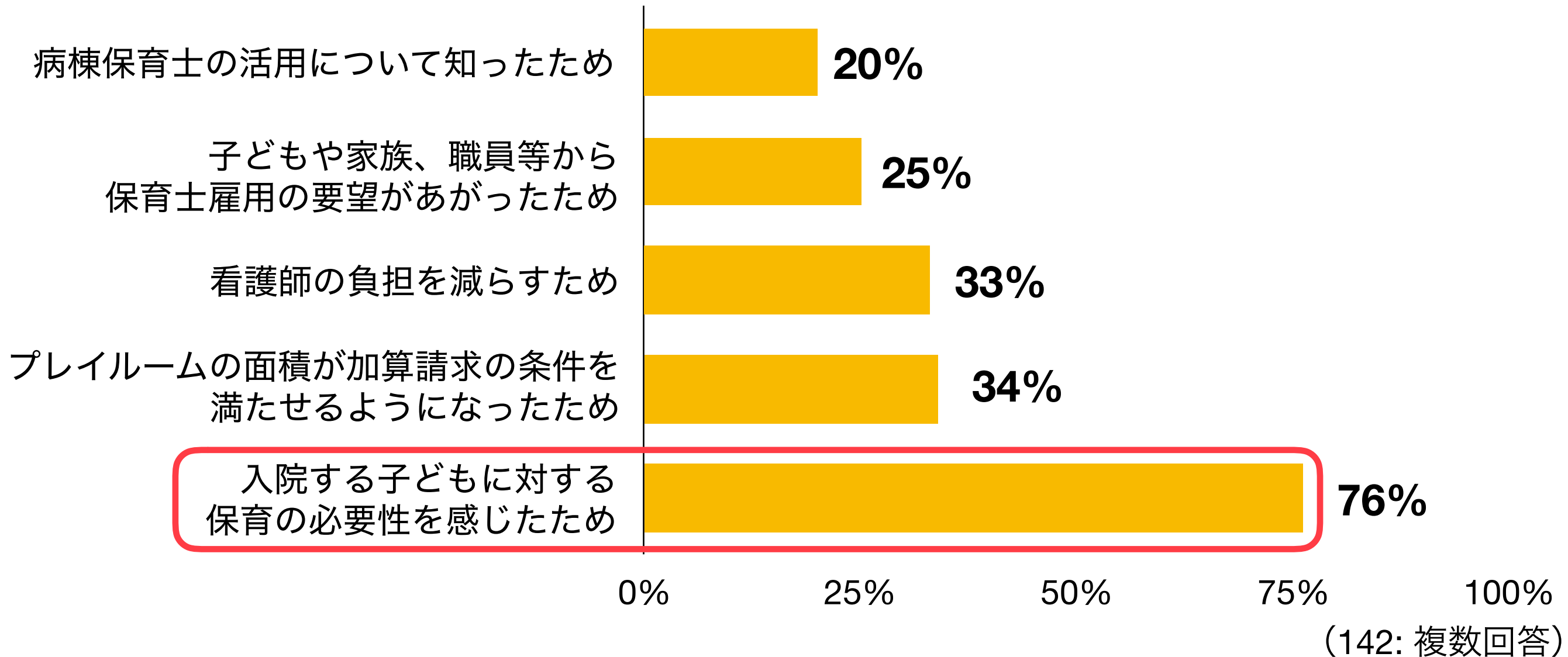


プレイルーム・保育士加算が算定できるようになった2002年以降、
病棟への保育士の導入が進んでいる

RQ1. そもそも、どれくらいの病院に、どのような経緯で病棟保育の導入が進んでいるのか

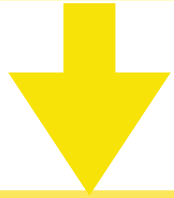
上司の回答

病棟保育士が導入されるに至った理由（複数回答）



入院する子どもに対して、必要性を感じて導入している

RQ1. そもそも、どれくらいの病院に、どのような経緯で病棟保育の導入が進んでいるのか



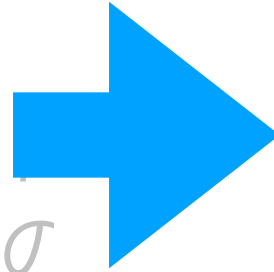
- 現時点で、全国196の病院の（小児）一般病棟に病棟保育士が配置されている。
- プレイルーム・保育士加算が算定できるようになったこと、また、入院する子どもに対して必要性を感じたことによって、病棟への保育の導入が進んでいる。

4つのRQ

RQ1. そもそも、どれくらいの病院に、どのような経緯で
病棟保育の導入が進んでいるのか

RQ2. 病棟保育は子ども・家族の支援に寄与しているのか

RQ3. 保育士は、
働いているのか



小児のみの一般病棟

成人と混合の一般病棟

成人のみの一般病棟

ICU・PICU

NICU

GCU

その他

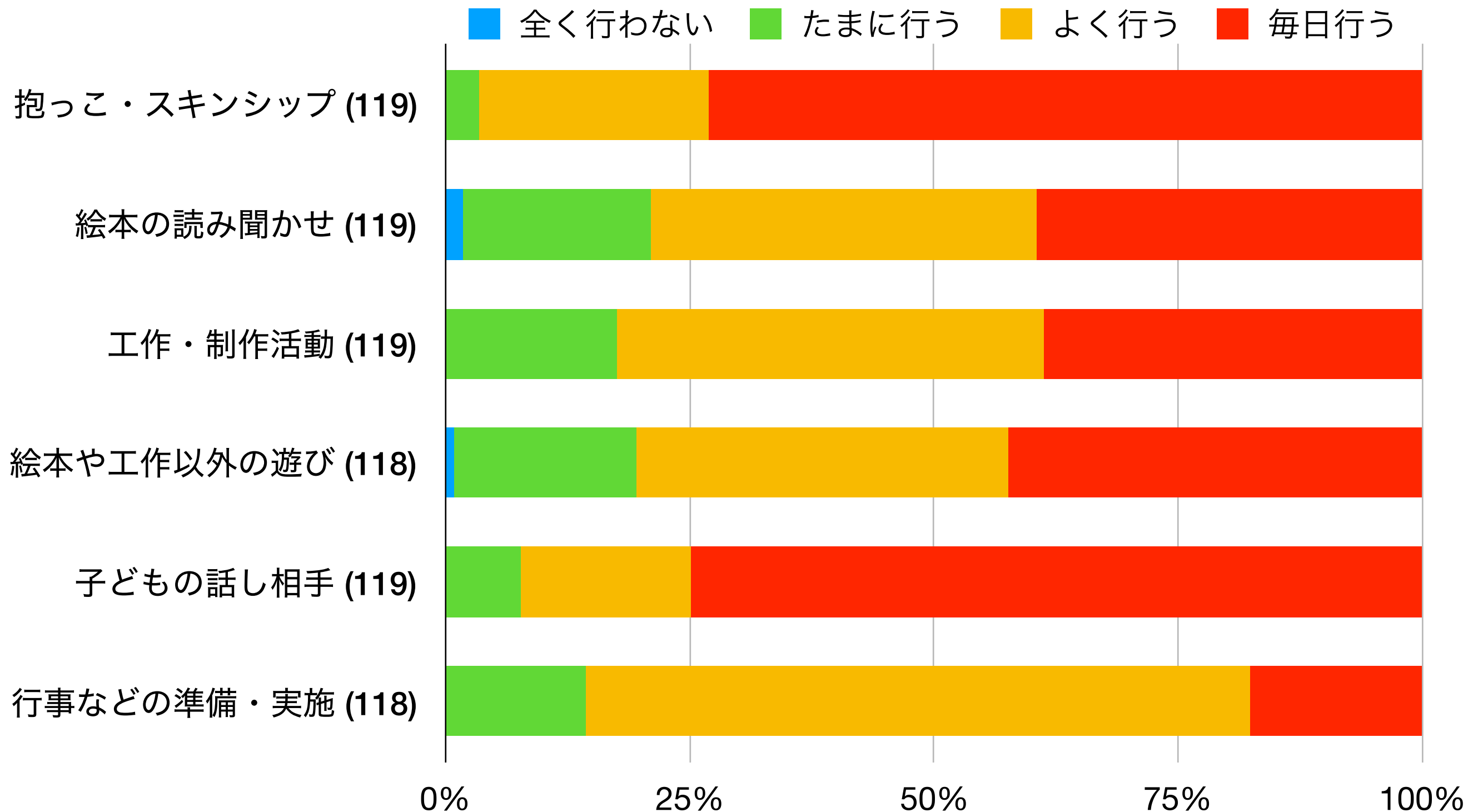
やりがいを持って

RQ4. 病棟保育は、
いるのか

のように寄与して

RQ2. 病棟保育は子ども・家族の支援に寄与しているのか

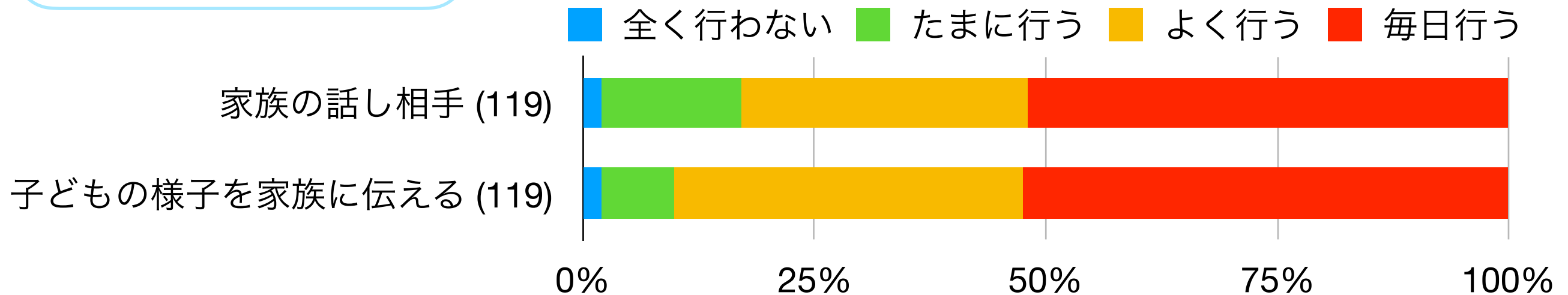
小児一般病棟の保育士の回答



RQ2. 病棟保育は子ども・家族の支援に寄与しているのか

家族を通した支援

小児一般病棟の保育士の回答



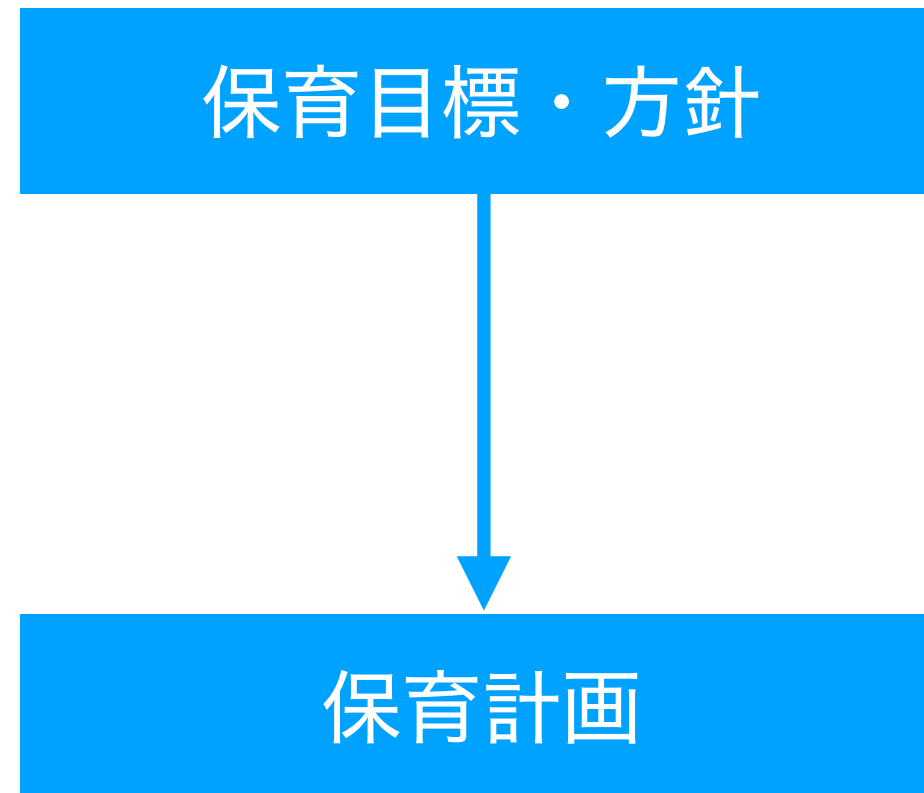
上司の回答

特に乳幼児期の患児の成長。発達面への不安の強い家族にとって、病棟保育士はいつでも相談できる環境は良い。また実際に不安が軽減できている。

家族との関係が悪くならないように配慮してくれる。（「ご家族が見ていない時も、先生はこのようなしてくれたんですよ」などの声をかけてくださることで関係がスムーズになる。）

患者および患者の家族が入院生活を送る中で、保育士がいることによって得られる安心感は、非常に大きなものがあり不可欠な存在だと考えています。

RQ2. 病棟保育は子ども・家族の支援に寄与しているのか



RQ2. 病棟保育は子ども・家族の支援に寄与しているのか

保育方針

小児一般病棟の保育士の回答

貴院において、
病棟保育における
保育方針はありますか
(110)

わからない

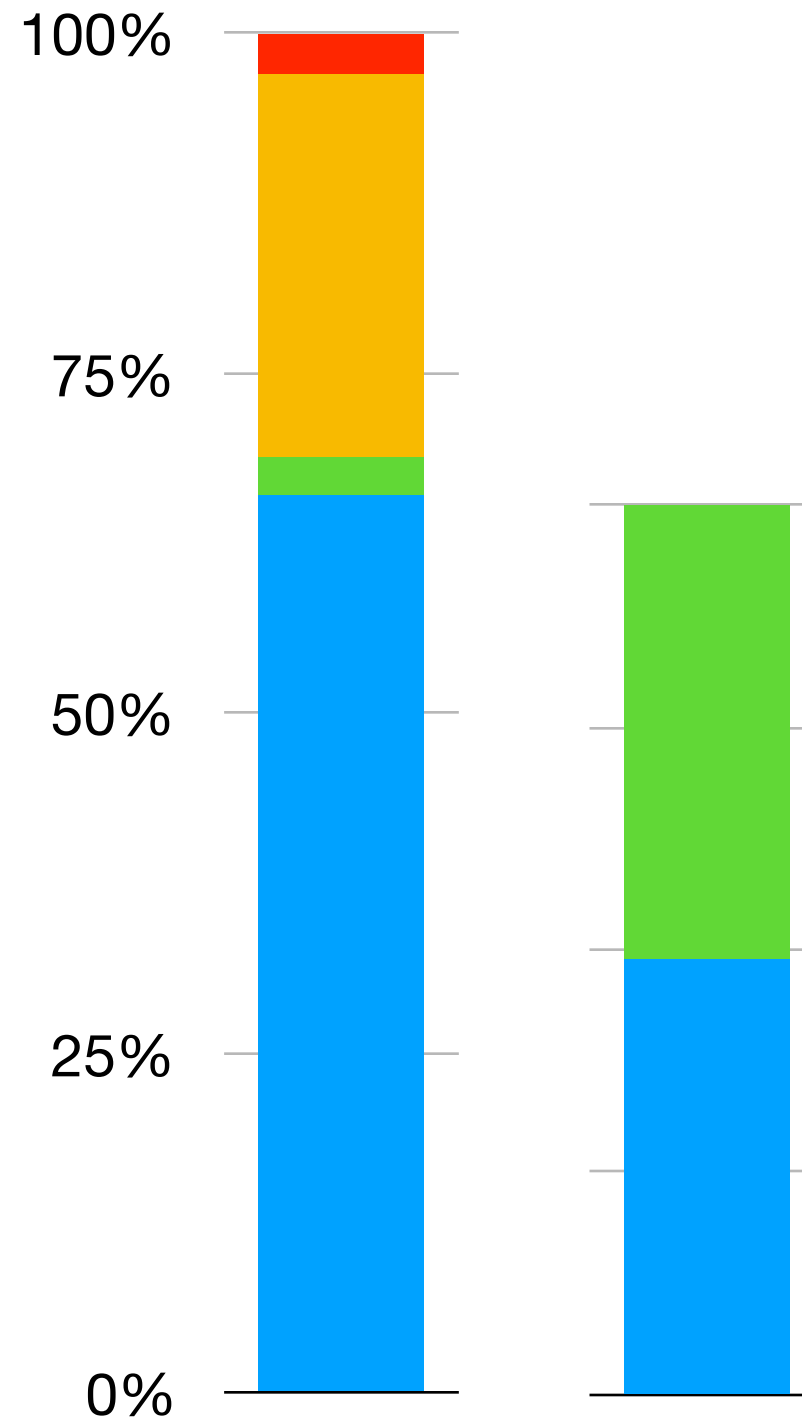
いいえ

(現在作成中のものはない)

いいえ

(現在作成段階)

はい



病棟保育の保育方針は、
なんらかの
公式文書やHPなどで
明文化されていますか
(69)

いいえ

はい

RQ2. 病棟保育は子ども・家族の支援に寄与しているのか

小児一般病棟の保育士の回答

保育計画

平均入院期間が2週間以上の病棟の場合：

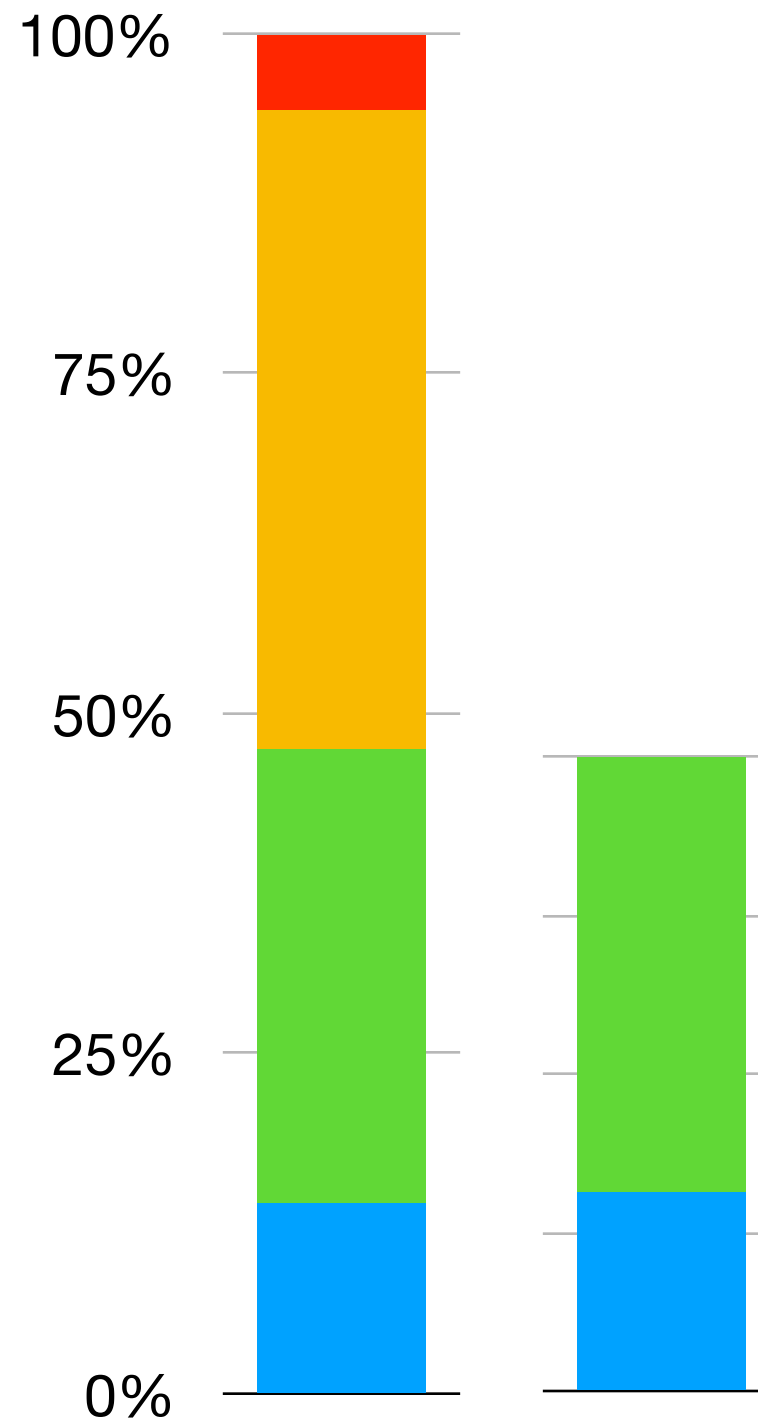
貴院において、
保育計画（指導計画）
を立てていますか
(36)

わからない

計画は立てていない

特定の子どもについて、
計画をたてている

すべての子どもについて、
計画をたてている



保育士は、どの程度、
保育計画（指導計画）の
見直しを行いますか
(16)

行なっていない

必要に応じて行なっ
ている

定期的に行なっている

RQ2. 病棟保育は子ども・家族の支援に寄与しているのか

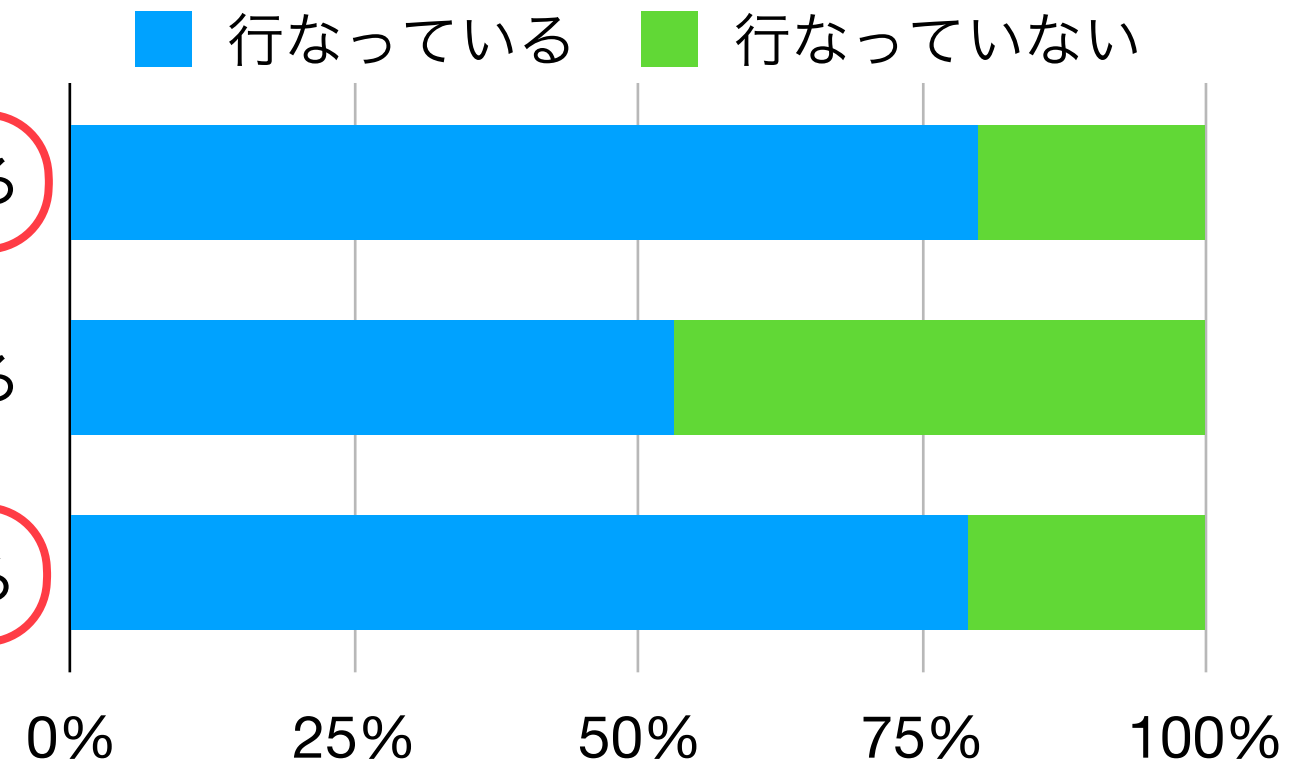
小児一般病棟の保育士の回答

他職種との情報共有

医師・看護師などが記入するカルテを閲覧する

医師・看護師などが記入するカルテに記入する

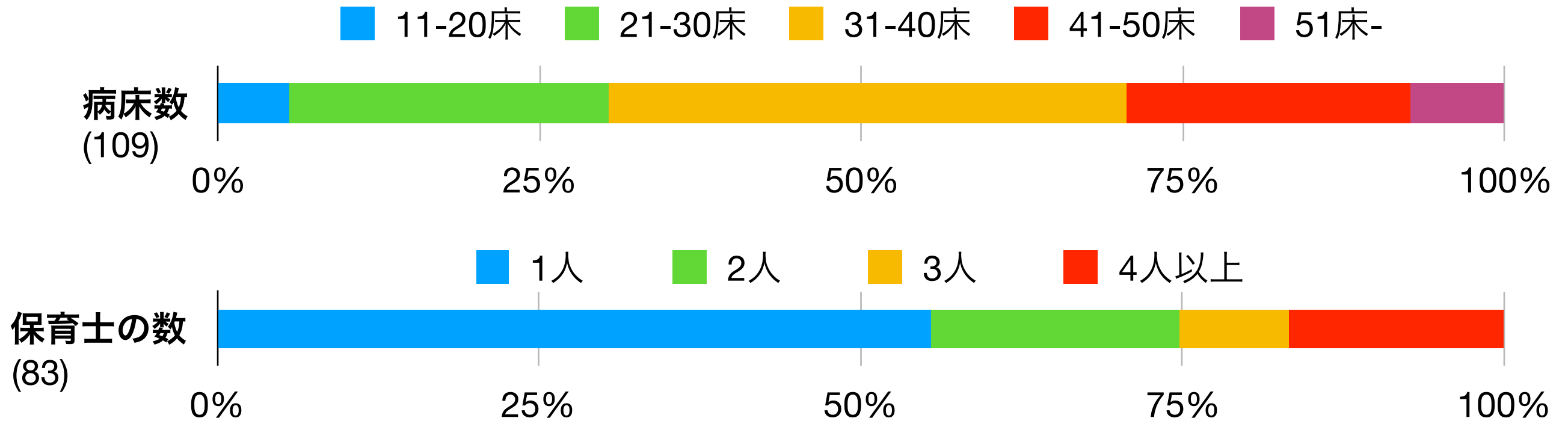
看護師の申し送りにする



- 全体の3割程度の病院では保育方針がなく、また、平均入院期間が2週間以上の病棟でも保育計画をまったく立てていない病棟が半分近い。
- 保育対象となる子どもについて、オフィシャルには十分に伝えられずに保育にあたっている人も2割ほどいる。

RQ2. 病棟保育は子ども・家族の支援に寄与しているのか

小児一般病棟の保育士の回答

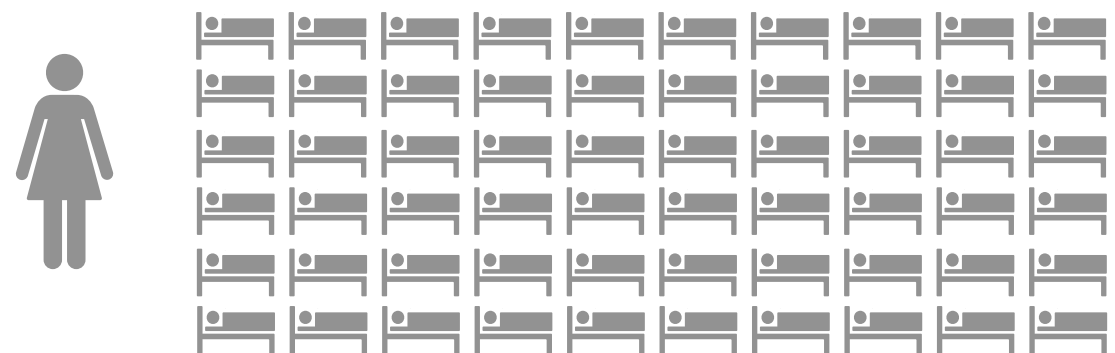


今回、保育士が1人の病棟で、最も病床数が少なかったのは、



保育士1人：19床 (稼働率47%)

今回、保育士が1人の病棟で、最も病床数が多かったのは、



保育士1人：60床 (稼働率75%)

※ 1病棟あたりの病床数はあまり多くなくても、そういった病棟を1日で複数回る人も。

RQ2. 病棟保育は子ども・家族の支援に寄与しているのか



- 小児一般病棟に配属されている保育士からの報告から、
 - 子どもの成長発達に寄与しうる遊びやスキンシップ、行事などは、多くの病棟保育士が、高い頻度で実践していること
 - 家族の支援（話を聞くことや子どもの様子を伝えること）も、高い頻度で行われているということ

しかし、

- ある程度一貫性の高い保育実践を可能ならしめる保育方針・保育計画という観点では、多くの病院では、依然として行われておらず、病院（病棟）によってばらつきが大きいこと
- 質が高く、安全な保育を行うために必要十分な情報の収集に関しても、ばらつきがあること

が明らかになった。

4つのRQ

RQ1. そもそも、どれくらいの病院に、どのような経緯で病棟保育の導入が進んでいるのか

RQ2. 病棟保育は子ども・家族の支援に寄与しているのか

RQ3. 保育士は、自身の使命・役割を理解し、やりがいを持って働けているのか

RQ4. 病棟保育は、病院全体の機能の向上にどのように寄与しているのか

RQ4. 保育士は、自身の使命・役割を理解し、やりがいを持って働けているのか

「役割ストレス」という視点

- ✓ 離職やバーンアウトと関連が指摘されている (e.g., Lee & Ashforth, 1996)
- ✓ 特に、看護職を対象によく研究されている指標

使用項目

役割葛藤

上司から求められる役割と自分の思う役割との間にズレを感じる
自分の目指す病棟保育と現実の間にずれを感じる
病棟保育についての考え方が上司と異なり悩む

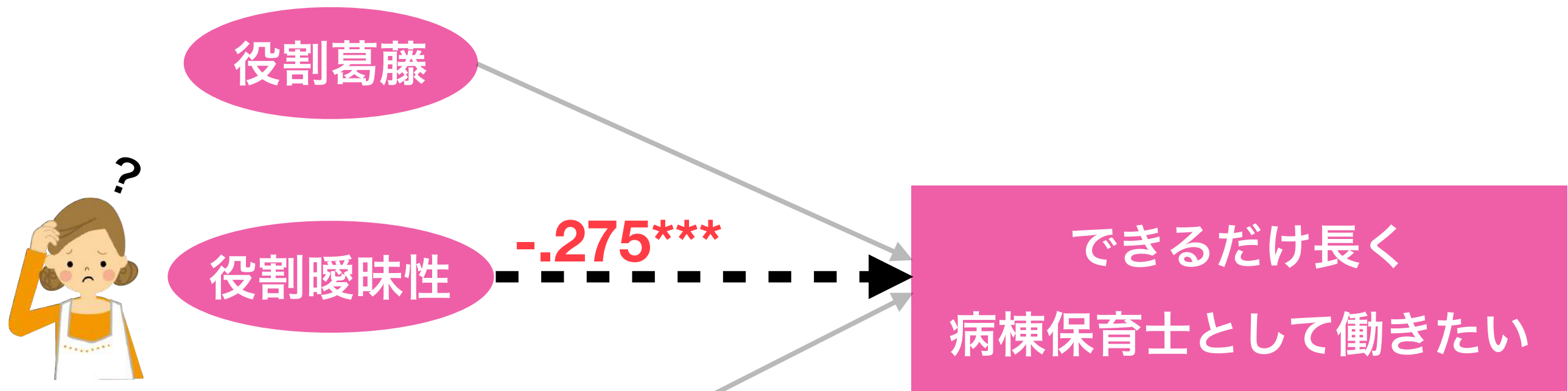
役割曖昧性

してもしなくても良いような仕事をさせられる
本来の自分の仕事は何なのか迷う
一体何が自分に期待されているのか分からない

役割過重

一度に沢山の種類の仕事を処理しなければならない
その日の勤務帯ではとても処理できそうに無い仕事をしなければならない
休み(休憩)を取る余裕も無いと感じる

RQ4. 保育士は、自身の使命・役割を理解し、やりがいを持って働けているのか



➡ 「役割曖昧性」を経験していればいるほど、
「できるだけ長く病棟保育士として働きたい」という気持ちが弱い

RQ4. 保育士は、自身の使命・役割を理解し、やりがいを持って働けているのか

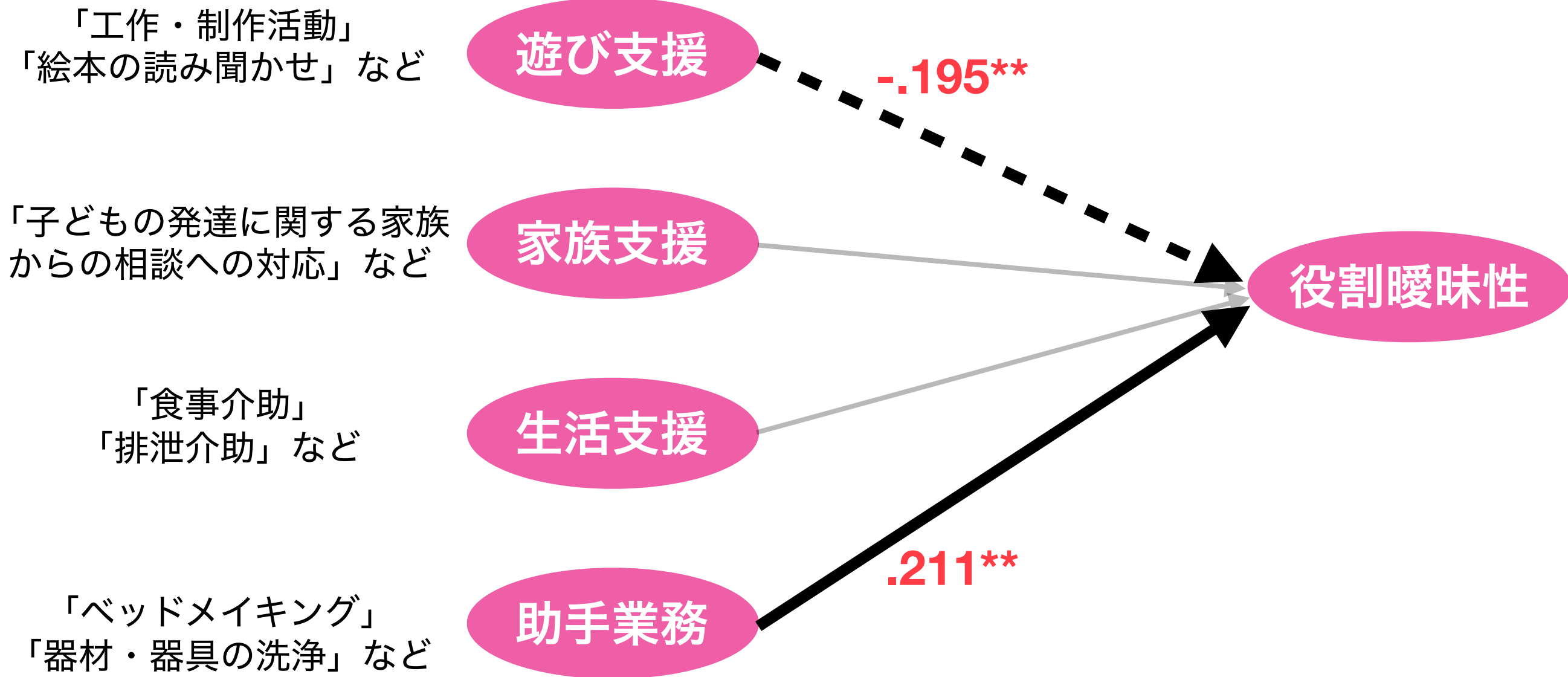
自由記述からみる役割曖昧性

担当看護師からの依頼がないかぎり、子供とかかわることがないため、**担当と、保護者との間で保育士についてどのように説明されているのかよくわからない。**本当は母親が保育を希望していてもかかわらないで退院してしまうことも多い。

普通の話はするが意見を言うのは別というような雰囲気もあり一番重要な所で連携がとれない。**朝の申し送り中も保育士は下膳でカルテ閲覧を許されていないため情報がとれない。**お菓子や飲み物など親の確認なし、アレルギーの確認なしで勝手にあげてしまう。**保育園ではだめだった事などいってもここは保育園ではないからと言われてしまい受け入れてもらえない。当院での保育士の存在意義を疑問に思う事がある。**

看護師、看護助手の人手不足により、保育業務よりも助手として求められていることがあると感じている。**急ぎの用など、必要な事だといわれると保育を中断していかなければならない状況。**

RQ4. 保育士は、自身の使命・役割を理解し、やりがいを持って働けているのか



「遊び支援」を行なっていればいるほど、「役割曖昧性」の経験が少なく
「助手業務」を行なっていればいるほど、「役割曖昧性」の経験が多い。

RQ4. 保育士は、自身の使命・役割を理解し、やりがいを持って働けているのか



- 病棟保育士も、役割ストレス（役割葛藤・役割曖昧性・役割過重）を経験している。
- 病棟保育士が「役割曖昧性」を経験しているほど「できるだけ長く病棟保育士として働きたい」という気持ちが弱い。
- 「役割曖昧性」は、「助手業務」の量と「遊び支援」と関連が示され、「助手業務」を行なっているほど「役割曖昧性」を強く経験している。

4つのRQ

RQ1. そもそも、どれくらいの病院に、どのような経緯で病棟保育の導入が進んでいるのか

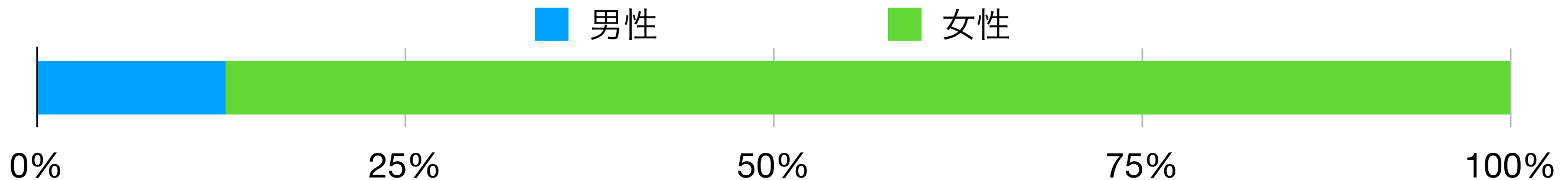
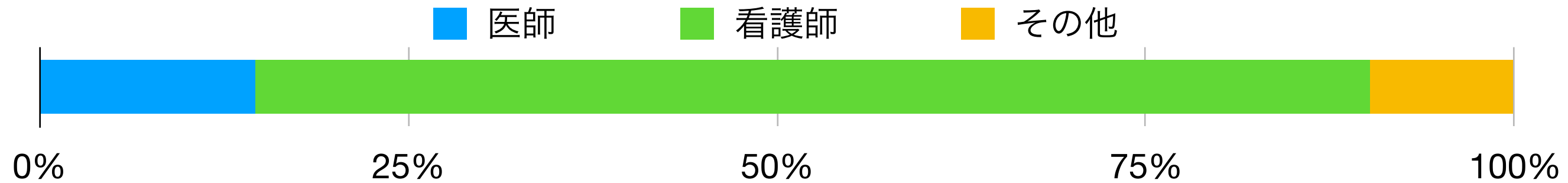
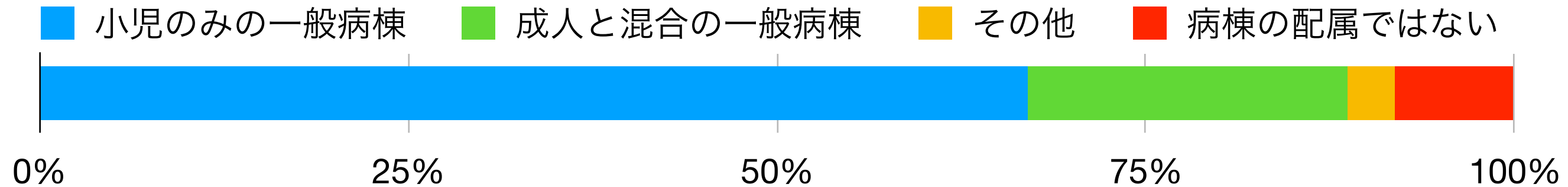
RQ2. 病棟保育は子ども・家族の支援に寄与しているのか

RQ3. 保育士は、自身の使命・役割を理解し、やりがいを持って働いているのか

RQ4. 病棟保育は、病院全体の機能の向上にどのように寄与しているのか

RQ4. 病棟保育は、病院全体の機能の向上にどのように寄与しているのか

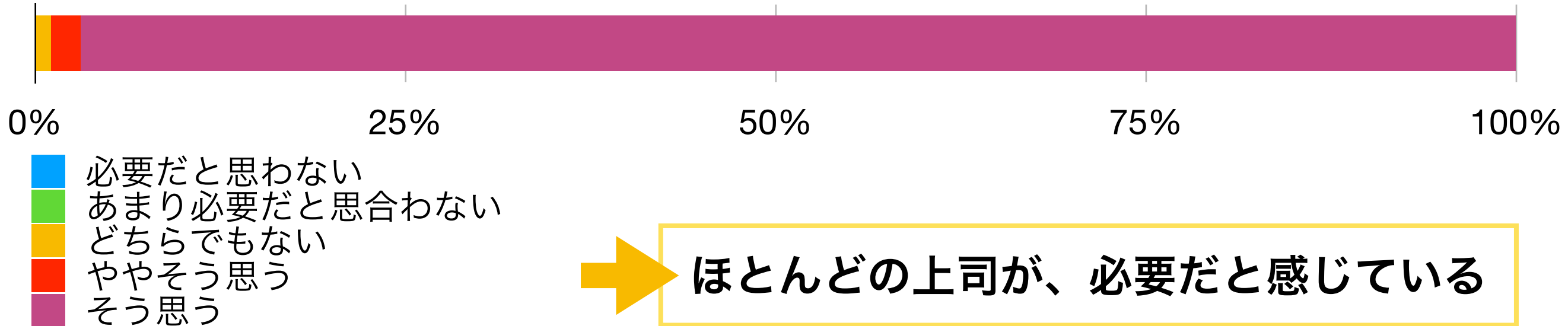
上司の属性



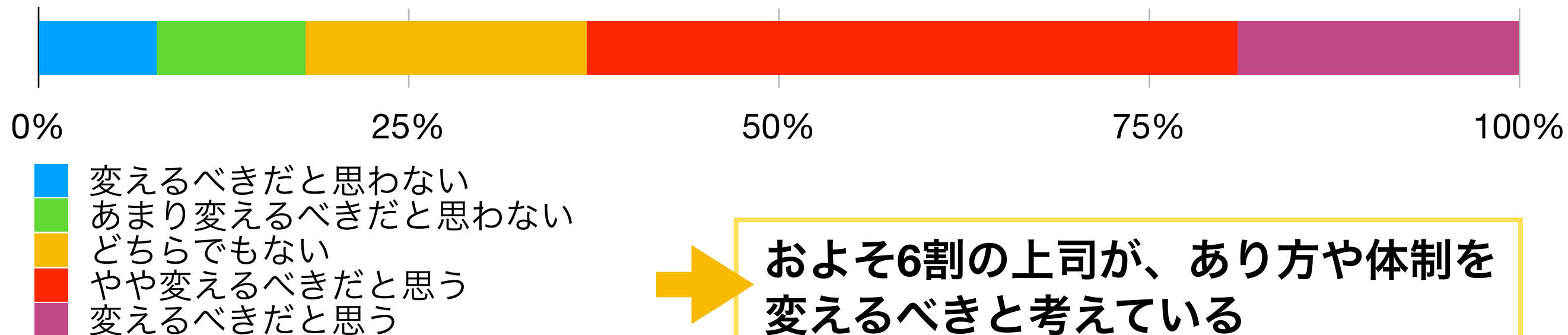
RQ4. 病棟保育は、病院全体の機能の向上にどのように寄与しているのか

上司の回答

病棟に、病棟保育士は必要だと思いますか

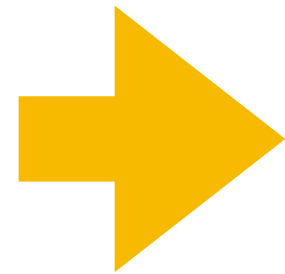


貴院の、現在の病棟保育のあり方や体制は変えていくべきだと思いますか



RQ4. 病棟保育は、病院全体の機能の向上にどのように寄与しているのか

では、



病棟保育士の上司は、どのような課題を感じ、
病棟保育のあり方や体制を変えたいと
感じているのでしょうか？

RQ4. 病棟保育は、病院全体の機能の向上にどのように寄与しているのか

上司の自由記述から見えてくる、互いに重なる4つの課題



RQ4. 病棟保育は、病院全体の機能の向上にどのように寄与しているのか

① 病棟保育士自身に関する課題

- ▶ 保育士の成長・スキルアップ
- ▶ 保育士の医療知識の不足・不透明さ
- ▶ 保育士のモチベーションの維持
- ▶ 保育士の主体性・自主性

病棟保育士は看護師の言うことが一番と思っているのか？言えないのか？指示を待っており、意見を言いません。看護と保育は同等であることを伝えていますが、人数も数ない為か？難しさを感じています。

医療についての知識がないこと。採用時に説明はするが、どこまで理解できているか不明。可能なら事前学習などこちらでも準備できればよいのかなと思う。

平均在病日数6～7日という短期入院患者が多い中、保育士にどうすればやりがい感をもたせモチベーション維持につなげることができるのか課題を感じる。

RQ4. 病棟保育は、病院全体の機能の向上にどのように寄与しているのか

② 病棟保育の体制に関する課題

- ▶ マンパワー不足・雇用の維持（保育の時間的制約など）
- ▶ 保育方針・目標がない
- ▶ 保育活動の記録・その活用

保育士に方針がない（決まらない） 事

4～5日の短い在院日数なので、業務におわれることが多く、**保育業務の確立がなかなかできない**。保育士をふやしたので、もう少し保育業務をふやしていきたいと検討中。

保育士が一人しかいないので早着・遅着で2人でいてくれるとこども達の不安が強い時のケアが行える。

RQ4. 病棟保育は、病院全体の機能の向上にどのように寄与しているのか

③ 病棟保育との連携に関する課題

- ▶ 相互理解
- ▶ 情報の共有
- ▶ 他職種間の棲み分け

看護師と保育士の役割の明文化

看護スタッフと話し合い情報共有は心がけているが、視点の相違があり相互理解が難しい（見守りの中で発達の一過程ととらえている行動を看護部門では”インシデント”ととらえていることがある）

1日の状況で臨機応変に動く必要があるので、その日の保育計画や報告事項の共有が困難。そのため、保育の動きがわかりにくく、依頼したい時に不在のことがある。

RQ4. 病棟保育は、病院全体の機能の向上にどのように寄与しているのか

④ 病棟保育の役割に関する課題

- ▶ 看護助手業務・生活支援業務について
- ▶ どこまで医療的な仕事ができるのか・行なってもいいのか

日常生活援助(オムツ交換、食事・哺乳介助など)をもっと看護師と一緒にやって欲しいが、依頼すると”看護師から指示はされたくない”と拒否をされる。もっと乳幼児の日常生活援助を看護師と一緒にやって欲しい。

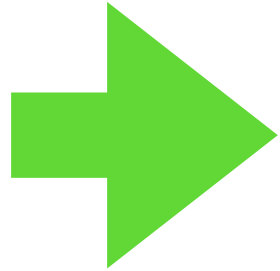
当院は、保育士として1カウントされていないため(0.5人)保育士のみの業務をしてもらいたい。助手業務と兼務であるため、保育が必要な時にスムーズに対応できないことがある。役割として保育者に行ってほしい。オペおわりやディストラクションに入ってもらいたい。

保育士とは、何の仕事をするのか？ 医療・福祉の現場で働く場合、法的な区分は？ 行なっている範囲は？

RQ4. 病棟保育は、病院全体の機能の向上にどのように寄与しているのか

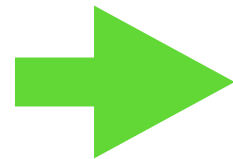


- 今回の調査にお答えいただいた病棟保育士の上司のほとんどは、病棟保育の必要性を感じている。
- その一方で、およそ6割の上司が、病棟保育のあり方や体制を変える必要性を感じていることから、改善の余地・必要性があることが伺える。
- そして上司は、病棟保育に関して以下の4点の課題を感じていた。
 - ① 病棟保育士自身に関する課題
 - ② 病棟保育の体制に関する課題
 - ③ 病棟保育との連携に関する課題
 - ④ 病棟保育の役割に関する課題



やはり、
病棟保育は難しいのでしょうか？？

- ・ 医療職に対する保育の「見える化」
 - ・ 一貫性・連続性のある保育
- の実践例

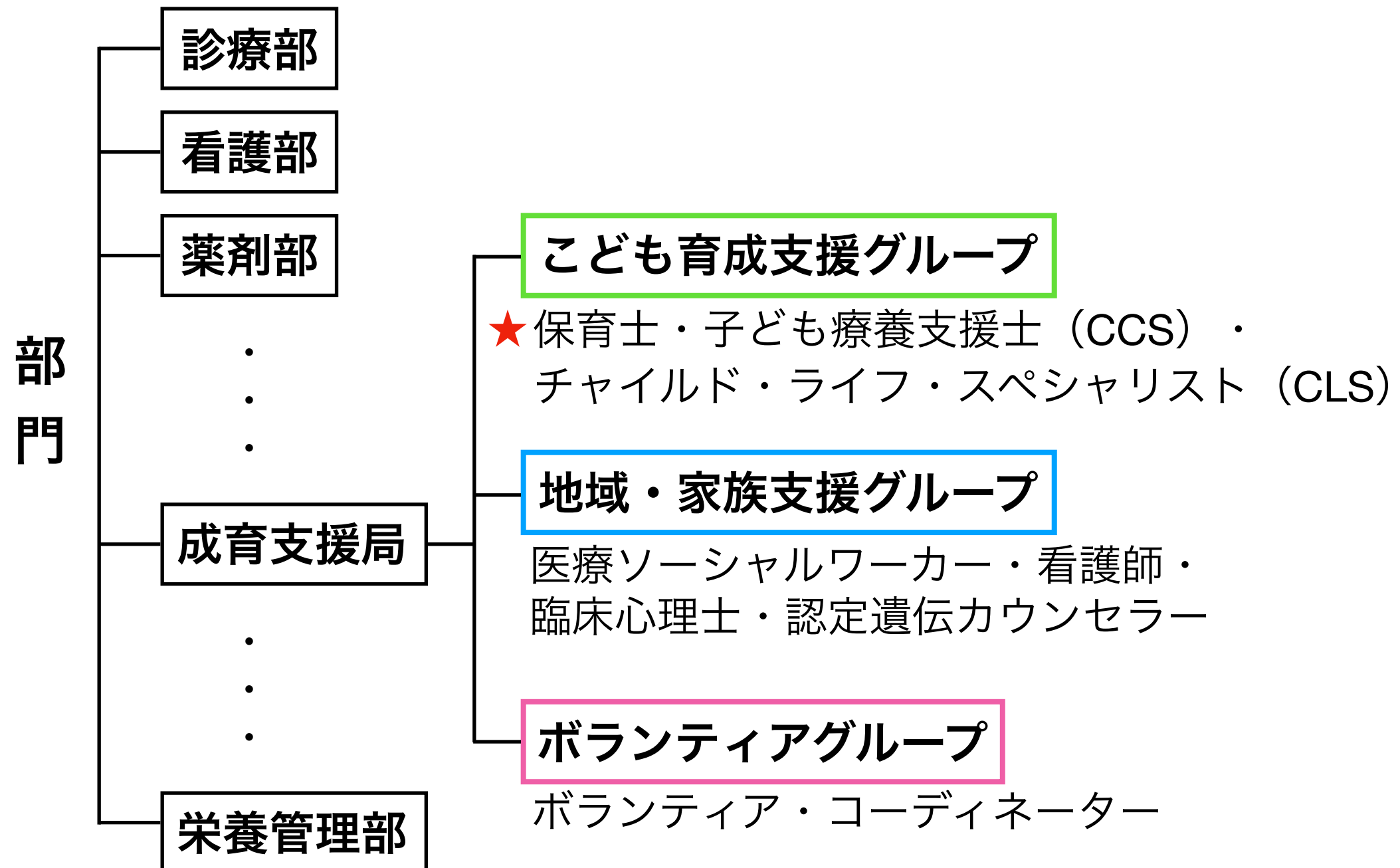


宮城県立こども病院の事例

宮城県立こども病院の事例



宮城県立こども病院の事例



※ 多くの病院では、保育士は「看護部」に所属

宮城県立こども病院の事例



個室（乳幼児用のベッド）

宮城県立こども病院の事例



4人部屋

宮城県立こども病院の事例

利用時間：10：00～12：00、15：00～20：00

対象：入院児と付き添い者

（きょうだい姉妹は感染面の問題から利用できない）

行動制限：医師の行動制限指示により利用可能

行動制限/場所

ベッド上



室内



病棟内フリー

（プレイコーナー/プレイルーム）



制限なし

プレイルーム入り口

宮城県立こども病院の事例

検査・処置・・・と
受け身になりやすい病院の中で
子どもが主体的に・自由にあそぶ
ことを保証するために工夫



どのような玩具がどこにあるか
一目瞭然のため、子どもが
主体的に玩具を選択可能

プレイルーム：玩具棚

宮城県立こども病院の事例



マットコーナー

乳児や、座位が上手くとれない
子どもなどが使用。

広い空間で全身を動かしたり、
他の子のあそびを見たりして、
あそぶことを保障できるように工夫

プレイルーム：マットコーナー・ままごとコーナー・空きスペース

宮城県立こども病院の事例



病棟には、乳幼児だけでなく、
小学生や中学生・高校生も。
そういった子どもの活動も保証できる
よう、制作に必要なものや教材も用意。

プレイルーム入り口：制作コーナー

宮城県立こども病院の事例

1. こどもを温かく受容し、こどもが安定感と信頼感を持って活動できるようにすること。
2. こどもの生活のリズムを大切にし、自己活動を重視しながら、生活の流れを安定し、かつ、調和のとれたものにすること。
3. こどもが自発的、意欲的に関われるような環境の構成と、そこにおけるこどもの主体的な活動を大切にする。
4. こどもの発達について理解し、こども一人一人の特性に応じ、発達の課題に配慮して保育すること。
5. 一人一人のこどもの活動を大切にしながら、こどもも相互の関係づくりや友達との関わりについても援助すること。

職員

- ・マニュアルに記載
- ・新規採用職員に向け、具体的な活動内容とともに記載

患者・家族・対外向け

保育目標をもとにした、保育士の「役割」を

- ・病院HPに記載
- ・プレイルームの利用方法とともに、利用マニュアルに記載
- ・成育支援局のパンフレットに記載
- ・入院後の病棟案内で紹介

保育目標

宮城県立こども病院の事例

他職種も使用する電子カルテ

↓
保育の「見える化」

医療者に保育を伝えるため
医師・看護師同様、保育士もSOAP形式で
その日、その子どもの保育目標・保育内容を入力

S (subjective) 主観的情報

A (assessment) 評価

O (objective) 客観的情報

P (plan) 計画

↓
「保育士が持っている情報がある」
ということが認知され、

多職種カンファレンスでも意見を求められる

電子カルテ：保育の「見える化」

宮城県立こども病院の事例

0A1E03381B44C72017032918015601.01 - 保育計画

ファイル ホーム 挿入 ページレイアウト 数式 データ 校閲 表示

MS Pゴシック 11 A A

貼り付け クリップボード フォント 配置

F24

	A	B	C	D	E
1					
2					
3					
4			保育目的	必要に応じて適切な保育活動を提供する	
5					
6			環境	安心感を持ち、入院生活が送れるよう、人・物・空間の環境を整える	
7			養護	一人ひとりのこどもの気持ちを受容し、共感しながら、こどもとの継続的な信頼関係を築いていく	
8					
9			教育	「心情」「意欲」「態度」がはぐくまれるよう、援助する	
10					
11			ご家族	コミュニケーションを取りながら、保育活動を提供する	
12					
13			他職種との連携	状態の把握、家族の思い(意向)を共有する	
14					
15			その他		
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					

援助方法

保育士記録

月	日	内容		サイン
		定型入力	フリー記載	
○	×		場所、状況、付き添いの有無、時間帯。 関わりの内容	△△

入院してくる子どもは、
退院した後に再度入院してきたり、
入院する病棟が変わったり・・・

断続的な保育

連続的な保育

保育士専用の記録：継続的な、一貫性のある保育を目指して

まとめ

「病棟保育」を 子どもの育ちを豊かにするものとして再定義

- ＊ 一定数の病院には病棟保育の導入も進み、その必要性も認知されているが、保育士自身や、その上司の回答から、改善の必要性が示唆されている
- ＊ 病棟保育士・上司からの報告をみていくと、その背景には、**明示的な「役割」や指導者がいないこと**による現場の混乱があるのでは？
 - 特に、「看護助手業務」や「生活支援業務」などの位置付けが、混乱を生んでいる可能性
- ＊ 病棟保育の「曖昧性」は、こども・病棟保育士・病院全体、すべてにとってマイナス
- ＊ 病棟保育は、入院する子どもの不安やストレスの軽減にとどまらず、**子どもの成長発達＝「育ち」を支える**ものであるという、原点・本来の目的に立ち返り、それぞれの病院の中で再確認していく必要があるのではないだろうか

本調査の意義

- ＊ 現在の病棟保育の実態について、その数のみならず、業務内容について広く、踏み込んで、捉えることができたこと

今後の課題

- ＊ 病棟の保育士と子どもの人数比なども考慮に入れた分析
- ＊ 上司と保育士を紐づけた分析
（「上司の考え方」と「保育士の満足感」など）
- ＊ 20年前・10年前の実態調査との比較を目指した分析

謝辞

- ＊ アンケート作成にご協力いただきました看護師の江本リナ先生、病棟保育士の土屋昭子先生、大野尚子先生、赤津美雪先生、小野鈴奈先生、海老名麻美先生、誠にありがとうございました。
- ＊ そして、お忙しいところ電話調査・アンケートの回答にご協力いただきました皆様、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

調査実施者：

東京大学教授・副センター長 遠藤利彦

東京大学教授・医学部附属病院小児科長 岡 明

東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター特任助教 高橋 翠

東京大学大学院博士課程 石井 悠